

《在鳴門》2011年8月 第71期

一、徳島月見ヶ丘海浜浴場(7月31日)

昨日、知り合いや友人を海浜浴場への遊びに誘ったが、1人だけ賛同してくれたのみだった。当日は午後に遊ぶ約束だったが、雨が降り始めたため、仕方なく計画を取り消した。

当日の朝、荷物を整え、地図で進行路線を探し、自分一人で行くことになった。自転車に乗って約40分後、ようやく徳島月見ヶ丘海浜浴場に着いた。

遊覧客は少なく、海に入っている人は大抵遊んでいるばかりで、真剣に泳ぐ人は僕しかいなかった。海岸の真ん中から入水し、岸から30メートルくらいした所にある防波堤へ向って泳いだ。そこですこし休憩してから、元の岸へ泳いで戻ってみると、約20分経過していた。青空と藍海、故郷の青島のなじみ思い出を感じ、爽やかな気分であった。海から上がって、赤いスリッパを履き、ピンク色の傘をさして砂浜にいる人々を見渡すと皆笑顔であった。

この海浜浴場の施設は青島海浜浴場よりも設備が整っていた。浜から上がると、正面に露台シャワーがあり、そこで簡単にスリッパの砂を洗った。次に、無料シャワールームに入って(4室ある)、ゆっくりシャワーをした(60円3分間のシャワーコーナーもある)。その後、30メートル程離れた更衣室へ行って、コインロッカー(たった10円)から荷物を取り出し、着替えて帰った。

松茂町一大津一吉永から左折し、木津地域に入った。来た路線と比べて、移動距離が三分の一程短くなった。しばらく走ると、ちょうどセブンスーパーが前にあらわれた。宿舎まであと10分くらいだろうか、僕はカゴに入りきらず、ハンドルに掛けざるをえない程食品とビールを買って、我が家へと向かった。

帰って後、まずシャワーをした。そして料理して食事をした。気持ちがよかった！つまり、生活の幸せとは、好きな事を試して、新しい日々を迎えることじゃないだろうか。

二、阿波踊りからの発想(8月13日)

昨夜、徳島市内実物の阿波踊りを見た。今日は家に籠って、テレビで生放送されている阿波踊りを見た。舞者の姿を見て、なんとなく中国の秧歌(ヤンゴ)と似ていると感じた。手を振りながら、足を動かすという、同じ明快な踊りである。しかし、秧歌はよりゆるやかで、阿波踊りはもっと激しいと感じた。ある連の男子舞者は頭巾の縄紐を鼻の下に掛けており、とてもおもしろい姿だと感じた。太鼓の音は迫力があり、人々の鼓動を激しくさせた。高い歯の下駄をはいた女子舞者方々は、こんなに速く歩けるなんて、もし目にしなかったら、とても信じられなかったと思った。

女性舞者の笠といえば、恐らく世界中唯一の型であろう。一見して蛤みたいと思った。それは徳島が太平洋沿岸部にあり、海生物の形をイメージして笠を作ったのかと思った。しかし、先日鳴門阿波踊り祭り会場で、一緒に仕事をしている職員と話して、それは間違いであることを知った。翌日、インターネットで検索してみいると、やはり蛤とまったく関係がなく、鳥追いから由来したもののようだ。

徳島県民は、阿波踊りを自慢する。踊り者や、観衆、皆が夢中になり皆が楽しい。阿波踊りは400年余を経ても、盛んであるから、日本国内外の大勢の観光客は徳島に殺到し、自分も思わず踊りたくなり、にわか連に入った。民俗の伝統文化は生命力を強く持っているわけだ。

一方、中国の民族舞踊を見ると、東北と陝北地方の秧歌を除き、民衆が参加できるものはないのかもしれない。皆、舞台上の役者の演技を見るだけだ。民俗の文化は中国では廃れつつある。都市の若者たちは夜はディスコのダンスホールに、昼間は路上でストリートダンスしたりと、すっかり欧米文化が染みついたのだ。老若男女が夢中で踊る阿波踊りの光景は、今まで、徳島の阿波踊り演舞場でしか見たことがない。漢唐宋明朝の民俗文化はどこにあるか？民俗文化は我らの心身の快樂の休憩地であるはずだ。近年、中国の少数地域には、漢服展示をしたり、古代礼儀を祭ったりをしている。それは、現代中国社会が先祖文化を敬おうとする試みなのだろう。延々5000年続く文明だが、今残っているのが漢字、唐詩と宋詞だけではない。我らは大事な民族文化がなければ、人生の方向性を失い、世界中をさまようことになるだろう。

三、外国人による徳島県日本語弁論大会

7月18日午後、徳島県国際交流協会が主催した「外国人による日本語弁論大会」は、県郷土文化会館で行った。選手は15人、中国、韓国、モンゴル、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、タイ、フィジーと台湾からの留学生である。大会は、最優勝、優勝、特別賞と努力賞を設置した。中国留学生王晋陶さんとアメリカ留学生Emily Dennyさんは最優勝賞を獲得した。王さんの発表題目は「海に向かう日本を体験」である。その内容は幼い頃、日本アニメの話がかわいいと感心してから、高校から日本語を勉強してきたというものだった。2010年、王さんは交換留学生の機会に、憧れの日本で一年間勉強することになった。わずかの時間だが、日本文化のぶつかりを味わうことができ、よい経験を得た。選手たちの発表は終わった後、聴衆方々からの質問を解答する時間だった。質問は、好きな阿波弁は何かとか、日本でおかしいと感じたことは何か等。その後、タイ国のかわいい女子選手は会場でタイの民俗踊りを踊って、会場の喝采と拍手を得た。

四、隣のある中山谷川

宿舍の隣には、中山谷川がある。岸边住民方々が栽培した花に飾られてとても美しい。水深はあまり深くないが、底の泥が厚そうだ。川には、魚と亀がたくさんである。動物と人間とは本当にやさしくて共存していると思う。僕は、毎朝川沿いから、隣の木津山城公園までジョギングする。偶に、気持がいい時は、小石を拾って、川に漂っている悠々たる

亀の甲を叩く悪戯ことをやってしまった。数匹の亀らは大抵家族だか、慌てて集まって、一緒に頭を上を豆目が丸く仰向いて、とても滑稽な光景だった。およそずっとこのような遭遇はしてこなかったのだろう。付近の住民方々は、誰でもこういう風に悪戯することなんてしないのではないだろうか。

川には、30センチ程の長さの魚がいた。数は多い。先日、そこへ釣りに友達を誘ったが、川の水がきれいではなくて、魚は多分食べられないと言われた。青島だと、恐らく既に捕まえられてしまっているだろう。確かに川の水がある程度濁ってはいるが、水草は茂り、魚や亀はこの川の中で何年も生息してきたのだろう。「水が清すぎると、魚が居ない」という諺は間違いではないようだ。

五、日本語と中国語との面白い比較

日本語では、トイレに行くのを手洗うというのだが、中国語では、手解くという。レターは手紙ということだが、中国語では、「信」と表現し、中国語の「手紙」はトイレペーパーの意味だ。日本語の「湯」は風呂と熱湯の意味だが、中国語では、「湯」がスープとか味噌汁とかの意味だ。中国語の風呂は「洗澡」(シザオ)ということだ。自転車は中国語では「自行车」といい、汽車は中国語では「火车」といい、自動車は中国語では「汽车」ということだ。電車は、中国語普段では、電気バスの意味だ。

日本語の擬声語や擬態語は沢山ある。市役所のような公的機関でも名前が常に活発な擬態語を用いている一方、中国の公的機関の名称は正式名称通りだ。これに関しては翻訳の時、頭が痛い。例えば：子どもいきいき課では、子どもには理解し易いが、「いきいき」の意味は活力満々の形容擬態語で、どうしても中国で翻訳するのはむずかしい。中国ではそんな生々しい言葉を公的機関の名称に使えない、もしかしたら直訳すると、皆が分からなくて笑われてしまうかもしれない。意識で「幼児保健課」を皆分かるようにすべきだ。他には、「すくすく保育園」も同じだ。こんな機構の名称は、むしろ直接に音訳して「SukuSuku 幼児園」と意識することが正しいのかもしれない。

日中両国の同じ四字熟語はたくさんある。例えば、「画竜点睛、深謀遠慮、千変万化、大器晩成、泰然自若、一举两得、一石二鳥」等々。しかし、大同小異の四字熟語も少なくない、例えば：「良妻賢母」は、中国語では「賢妻良母」って、賢と良はもともと類語だから、転倒してもわかるべきだが、日中の発音の関係でそれぞれ言いやすい方が定着したのかもしれない。また、「疑心暗鬼、粉骨碎身、龍頭蛇尾、山紫水明」は、中国語の「疑神疑鬼、粉身碎骨、虎頭蛇尾、山清水秀」である。

日中漢字の発音を比較するとあるルールがあることがわかった。漢字は、中国の漢、隋、唐、宋時代に日本に伝来してきた。だから、日本語漢字は漢音と唐音と宋音などがある。そして、現代中国語の発音とちょっと違うけど、近いものがある。たとえば、「胃、威、委、位、偉」の「い」音は、中国語ではすべてWei (ウィ) って；「漢、韓、寒」は中国語では Han (ハン) って、「乾、感」は中国語では Gan (ガン)、「看、刊」は中国語では似ている Kan (カン) ということだ。そして、僕は常に日本語を勉強す時、中国の方言を習う

のと同じだと思いながら進めた。それが、長い間こつこつと日本語勉強が続けられた動機なのだろう。

今まで、大量な日本語言葉も中国に入った。特に、若者層にはよく言われている。例えば：演舞場、熟女、達人、カワイ等々。中国にこの言葉を見た時、若者の創意だと思ったが、日本に来てから、それはもともと日本語なんだと初めてわかった。

六、青島ビール祭に、2日で51万客が来場（2011-08-15「青島ビール祭りの公式ページ」掲載）

8月13日に開催し、15日間続く青島ビール祭は、初2日で51万超の観光客が来場し、ビールの販売数量が135トンだった。13日は土曜日だった。午前9時から午後10時まで、初日の会場への来場者は28万人になり、ビール販売数量は77トンになり、いずれも史上最多となった。14日、天気めぐまれて、来場者もビール販売数量も引き続き好況だった。

14日午後5時ごろ、初出店のチェコ国のブースには、100名ほどの店員が会場を歩き来している。午後4時ごろからピークを迎え、5時には全部の120のテーブルがほぼ満席になった。閉店後の片付けは翌日の朝2時までやっていた。ドイツ Paulaner ブースはビール祭の常連であり、今回、昨年比1.5倍で1500平米の場所を設けた。

青島市概況

青島市は、面積が11282平方キロ、市中心区域は1,471平方キロ、常住人口が871.51万人（2010年統計）。行政管轄のは7区と5市である。青島市役所の位置は市南区である。

市南区 面積 30平方キロ、人口 54.48万。

市北区 面積 29平方キロ、人口 55.82万。

四方区 面積 35平方キロ、人口 46.25万。

李沧区 面積 98平方キロ、人口 51.24万。

黄島区 面積 277平方キロ、人口 52.42万。

崂山区 面積 389平方キロ、人口 37.95万。

城陽区 面積 553平方キロ、人口 73.72万。

膠州市 面積 1210平方キロ、人口 84.31万。

即墨市 面積 1727平方キロ、人口 117.72万。

平度市 面積 3166平方キロ、人口 135.74万。

膠南市 面積 1846平方キロ、人口 86.84万。

萊西市 面積 1522平方キロ、人口 75.02万。